令和5年度実施施策に係る政策評価書

（内閣府6－14）

政策名	共生社会政策
施策名	青年国際交流の推進
達成すべき目標	【施策目標】国際社会・地域社会でリーダーシップを発揮できる青年の輩出 【中目標】国際協調の精神とリーダーシップ力、マネジメント力の向上
施策の概要	【施策の概要】 日本青年の海外派遣、外国青年の日本招へい、船による多国間交流事業等の実施を通して、青年相互の理解と友好を促進するとともに、青年の国際的視野を広めて、国際協調の精神を養い、次世代を担う国際性とリーダーシップを備えた青年を育成する。
	【旧施策の実績・実施状況】 （政策名／施策名）共生社会実現のための施策の推進／青年国際交流の推進 （評価対象期間）平成30年度～令和4年度　　（評価方式）総合評価方式 平成30年度及び令和元年度については、予定通り、日本青年の海外派遣、外国青年の日本招へいと船による多国間交流を着実に実施した。 令和2年度及び令和3年度については、新型コロナウイルス感染症の世界的流行のため通常通りの事業の実施が困難となったが、オンライン交流という形式で事業を行い、対面での交流が叶わない中でも工夫を凝らして交流を実施した。 令和4年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、一部の事業において、感染症対策を十分に実施したうえで対面交流を復活させ、過去2年間のオンライン交流の実績も生かして、オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド形式という新たな形での交流を実現した。
	【令和5年度に実施した具体的取組】 日本・中国青年親善交流事業のみオンラインにて交流を行ったが、新型コロナウイルス感染症の流行の収束を踏まえ、4年ぶりに国際社会青年育成事業及び日本・韓国青年親善交流事業での日本青年の海外派遣及び外国青年の日本招へいや「東南アジア青年の船」事業での対面交流、「世界青年の船」事業での船を用いての交流を再開した。中でも、「世界青年の船」事業では、令和3年度から4年度にかけて実施した「青年国際交流事業の在り方検討会」での議論も踏まえ、日本国内を船で回り、寄港地において、地域が現に抱える課題について解決策を検討・提案する形で実施する実践的なプログラムを新たに実施した。

施策の予算額・執行額（単位：百万円）	区分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	予算の状況	当初予算(a)	1,383	1,328	1,331	1,346
		補正予算(b)	−1,231	−768	0	−
		繰越し等(c)	−	−	−	
		合計(a＋b＋c)	152	560	1,331	
	執行額		108	411	953	

施策に関係する内閣の重要政策（施政方針演説等のうち主なもの）	こども大綱（令和5年12月22日閣議決定）

施策目標（最終アウトカム）	国際社会・地域社会でリーダーシップを発揮できる青年の輩出
中目標1	国際協調の精神とリーダーシップ力、マネジメント力の向上
測定指標1 【主要な測定指標】	事業参加青年を対象とした事業効果把握調査の結果

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	達成状況
目標（目標年度）	参加青年について、参加前や本事業に参加していない一般層との比較において、特定の行動傾向に優位性が生じること（令和9年度）	施策の進捗状況（目標）	参加青年について、参加前や本事業に参加していない一般層との比較において、特定の行動傾向に優位性が生じること					○
基準（基準年度）	-	施策の進捗状況（実績）	参加青年について、成果に結びつける力に係る行動傾向のうち周囲との競争的な場面でチャレンジングな行動をとる傾向や、性格特性（外向性、開放性、協調性）において、参加前と比較して優位性が確認できた。なお、成果に結びつける力に係る行動傾向の総合的な値を測定する指標において、一般層と比較して高い優位性を確認することができた。					

参考指標1	国際社会青年育成交流事業、日本・中国青年親善交流事業及び日本・韓国青年親善交流事業において、外国青年と交流を行った日本参加青年の人数			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	参考値（参考年度）	48（令和4年度）	年度ごとの実績値	71				

参考指標2	国際社会青年育成交流事業、日本・中国青年親善交流事業及び日本・韓国青年親善交流事業において、日本青年と交流を行った外国参加青年の人数			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	参考値（参考年度）	69（令和4年度）	年度ごとの実績値	82				

参考指標3	「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業において、外国青年と交流を行った日本参加青年の人数			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	参考値（参考年度）	78（令和4年度）	年度ごとの実績値	111				

参考指標4	「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業において、日本青年と交流を行った外国参加青年の人数			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	参考値（参考年度）	320（令和4年度）	年度ごとの実績値	207				

評価結果	目標達成度合いの測定結果	（各行政機関共通区分）　② 目標達成
		（判断根拠） 成果に結びつける力に係る行動傾向については、周囲との競争的な場面でチャレンジングな行動をとる傾向において、事業参加青年に参加前後で有意な数値の上昇（55.2→59.5（※1））が認められた。普段と異なり行動発揮が難しい環境の中ではあったものの、多くの参加青年が、周囲と競争的な場面においては、従来よりもチャレンジングな行動を取れるようになったと推察される。 また、性格特性においては、外向性、開放性、協調性の3分野において、事業参加青年に参加前後で有意に変化が認められる結果（外向性：5.6→6.5、開放性：6.6→7.0、協調性；5.5→5.9（※2））となった。青年国際交流事業での経験を通じて、興味や関心が外に向き、他者との協調性が増すとともに、新しい物事に対する寛容性、創造性が向上したものと推察される。 なお、一般層との比較においては、「成果に結びつける力」に係る行動傾向の総合的な値を測定する指標において、事業後の事業参加青年は一般層に比して非常に高い値（一般層：50、事業参加者：61.5（※1））を示した。 （※1）最大を100、最小を0、全国平均を50として整理した値。 （※2）最大を10、最小を1、全国平均を5.5として整理した値。
	旧施策の評価結果	令和2年度から5年度にかけては、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により従来と異なる形での事業の実施となったため、例年と比較した定量的な評価は困難だが、様々な制約の中にあって、本体プログラムに先立って青年同士の自由な交流を可能とするオンラインのプラットフォームを設定する等、できる限りの工夫を凝らし、参加青年の育成に資する充実した交流を実施できたものと評価する。
	施策の分析 （目標達成・未達成に関する 要因分析等）	言語的にも文化的にも普段と異なる困難な環境の中で、より実践的な内容について主体的に取り組むことが求められる様々なプログラムに参加する経験を提供できたことが、上記のような測定結果を得られた要因であると考えられる。
	次期目標等への反映の方向性	【次期の施策の方向性について】 引き続き推進
		【目標・測定指標の見直し等について】 各年度の事業の実施結果を踏まえ、国際社会・地域社会で活躍する次世代グローバルリーダーの育成という事業目的を達成すべく、毎年度の事業を着実に改善するとともに、事業の効果を適切に測定をする指標について引き続き検討する。

学識経験を有する者の知見の活用	－

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	令和5年度実施「内閣府青年国際交流事業参加青年の選考試験の実施及び事業効果の把握に係る請負業務」におけるパーソナリティ診断を用いた事業効果の把握結果報告書 内閣府青年国際交流事業既参加日本青年フォローアップ調査報告書

担当部局・作成責任者名	政策統括官（共生・共助担当）付 参事官（青年国際交流担当）　藤森　俊輔	事後評価実施時期	令和6年8月